

東温高校 科目別シラバス

教科	芸術Ⅲ	科目	音楽Ⅲ	単位数	2	教科書名(発行所)	音楽Ⅲ(教出)	評価の観点			
学期	月	指導計画(単元名、指導項目その他)			指導内容や学習のねらい			観点1	観点2	観点3	観点4
								1	2	3	4
一 学 期	4	1 オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の授業の流れや、年間の目標を知る。 ・日本音楽と西洋クラシックの違いや良さを理解する。 ・演奏形態の違う音楽を鑑賞し、特徴を比較する。 ・楽譜の読み書きが正確に行えるようになる。 ・和音進行について理解し、弾けるようになる。 ・ギターの基本的な奏法を身に付ける。 ・ギターの特性を知り、音色を味わって単音演奏する。 			○					
		2 日本の音風景(四季の音楽) ・『春の海』『春庭花』				○			◎		
		3 楽典&ソルフェージュ ・和音						○			
		4 ギター ・チューニング、単音演奏 ・コード演奏				◎		○			
		6 ・ギターアンサンブル① ・ギターアンサンブル② ・発表会				○		◎			
二 学 期	6	5 創作 ・伴奏の創作	<ul style="list-style-type: none"> ・メロディーに合わせて伴奏を演奏する。 ・自己のイメージを持ち、ペアと協力して伴奏を創意工夫する。 ・他者の演奏を聴き、自らの演奏との違いやよさを味わう。 ・自分のつくりたい音楽をイメージして、構想を練る。 ・曲のイメージに合ったリズムを決定し、伴奏を考える。 			◎		○			
		8 ・身の回りの音に耳を傾けよう 6 日本の伝統音楽と楽器(三線)				○			◎		
		9 ・調弦、基本奏法 ・音階の演奏 ・『八木節音頭』 ・グループ演奏① ・グループ演奏②				◎		○			
		10 7 舞台芸術の魅力 ・ミュージカル『ウエスト・サイド・ストーリー』 ・ミュージカル『美女と野獣』 ・オペラ『ジャン・ヌスキッキ』				◎			○		
		11 8 ピアノで弾き語り ・『ぶんぶんぶん』『めだかの学校』 ・両手を使ったピアノ伴奏①				○		◎			
三 学 期	12	・音楽鑑賞レポート 9 同声二部合唱 ・『ふるさと』『卒業写真』 10 ファイナルコンサート	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな音楽についてまとめる。 ・全体の響きを考えながらアンサンブルを楽しむ。 ・他者の声をよく聴いて、タイミングを合わせながら合唱する。 ・音楽の楽しさを味わい、生涯にわたり音楽を愛好する姿勢を養う。 			○			◎		
		1 ・『ふるさと』『卒業写真』				◎		○			
		2				○		◎			
		3				○		◎			
		3									

評価の観点	評価の規準	評価の方法
観点1: 関心・意欲・態度	楽曲の表現内容に関心を持ち、表現意図をもって創造的に演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。また、音楽の構造上の特徴と美しさとのかかわりや、音楽と自然や風土とのかかわりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとし	学習の取り組み状況(観察・聴取) 課題プリント、学習プリント、授業態度
観点2: 思考・判断	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、楽曲の表現内容を総合的に理解して音楽表現を工夫し、どのように演奏するか、どのように音楽をつくるか表現意図をもっている。	学習の取り組み状況(観察・聴取) 学習プリント 創作曲
観点3: 技能	楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって個性豊かな音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	課題進捗状況、学習の取り組み状況(観察・聴取) 実技テスト、記録表
観点4: 知識・理解	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、音楽の構造上の特徴と美しさを理解して、楽曲や演奏を解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを味わって聴いてい	鑑賞レポート 課題プリント 小テスト

東温高校 科目別シラバス

教科	芸術Ⅲ	科目	美術Ⅲ	単位数	2	教科書名(発行所)	美術3(光村図書)			
学期	月	指導計画(単元名、指導項目その他)				指導内容や学習のねらい		評価の観点		
		観点1	観点2	観点3	観点4					
一 学 期	4	1 オリエンテーション				教科書の作品を鑑賞し魅力を味わう。 作家の生涯と作品を通して主題を読み取る。	◎			
		2 鑑賞 (1) 作品鑑賞室					○			◎
		(2) 作家の生涯と作品					○			◎
	3 安心を作るデザイン (1) アイデアスケッチ				○			◎		
	(2) 型の制作				○		○			
二 学 期	6	(3) 鋳造				○		○		
		(4) 研磨				○		◎		
		(5) 仕上げ				○	○			
	4 編集で広がる映像の世界 編集方法の良い作品の鑑賞				○		◎			
	5 人権ポスター				○		◎			
三 学 期	7	(1) アイデアスケッチ・下書き				○		○		
		(2) 着色				○		◎		
						○				
	四 学 期	8	人権ポスター仕上げ				○	○	○	
			6 デザイン ～イラストレーション～ (1) エスキース				○			
"				○	○		◎			
五 学 期		9	(2) 下絵の制作				○		◎	
			(3) 下地塗り				○		○	
	(4) 着色				○	○				
	六 学 期	10	(5) 修正				○		◎	
			(6) 仕上げ				○		◎	
(7) 作品鑑賞				○			◎			
七 学 期		11	7 卒業制作 (1) テーマについて				○			
			(2) アイデアスケッチ				○	◎		
	(3) 制作				○	○				
	八 学 期	12	"				○	○		
			"				○		○	
(4) 作品鑑賞				○			◎			
九 学 期		1	8 美術作品鑑賞レポート				◎			
			9 3年間で振り返って				○	○		
	"				○	○				
	十 学 期	2	"				○	○		
			"				○	○		
"				○	○					
十一 学 期		3								

評価の観点	評価の規準	評価の方法
観点1: 関心・意欲・態度	美術の表現活動に関心をもち、主体的に授業に取り組み、主題を追及したり芸術文化の理解を深めたりできる。	作品 授業態度 提出物
観点2: 思考・判断	感性や想像力を働かせて主題を生成し、表現形式の特性を生かして創造的な表現の構想を練ることができる。	作品 授業態度 提出物
観点3: 技能	意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、主題を追及し表現している。	作品 授業態度 提出物
観点4: 知識・理解	美術作品などの良さや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、美術文化についての理解を深めている。	授業態度 提出物 発表

東温高校 科目別シラバス

教科	芸術Ⅲ	科目	書道Ⅲ	単位数	2	教科書名(発行所)	書道Ⅲ(光村図書)	評価の観点					
学期	月	指導計画(単元名、指導項目その他)				指導内容や学習のねらい				観点1	観点2	観点3	観点4
										1	2	3	4
一 学 期	4	1 漢字の書1(篆書) (1)散氏盤(金文) (2)天発神識碑 (3)篆書崔子玉座右銘四屏(小篆) "				・篆書のもつ時代性や精神性への理解を深め、個性的、創造的な表現を工夫する。 ・篆書が字形や筆法により、多彩な表現になることを理解する。 ・隷書のもつ時代性や精神性への理解を深め、個性的、創造的な表現を工夫する。 ・特徴ある線質等隷書の多彩な表情を感じ取る。 ・変化と調和の要素の関連を意識しながら、行書の多彩な表情を感じ取る。 ・平安時代の古典のもつ時代性や精神性への理解を深め、個性的、創造的な表現を工夫する。				○	○	○	○
		2 漢字の書2(隷書) (1)礼器碑 (2)銀雀山漢簡 (3)敦煌漢簡 (4)張遷碑 (5)開通褒斜道刻石								○	○	○	○
	6	3 漢字の書3(行書) (1)喪乱帖 (2)伊都内親王願文 (3)玉泉帖								○	○	○	○
		4 漢字の書4(草書) (1)自叙帖								○	○	○	○
二 学 期	8	鑑賞レポート 5 鑑賞レポート発表会				・町や史跡等で見られる看板や表札の魅力ある書表現を探し取材して発表し、理解を深める。 ・漢字と仮名の調和を理解し、自由に表現する喜びを味わう。 ・文字と余白の関係を理解し、全体構成を考えた表現を身に付ける。 ・感じたことを自分のことばでまとめ、意見交換する。 ・平安時代中期・後期の字体・用筆・構成を理解する。 ・草仮名の柔らかな用筆と行書きを習得する。 ・洗練された女手の線質と大胆な散らし書きを習得する。 ・細く張りのある線質や整列した行を習得する。 ・感興や意図に応じて素材を選び、古筆の表現や形式に応じた構成を工夫する。 ・刻字作品を制作し、立体的な書表現について理解を深める。 ・刻し方や彩色の技能を習得し、個性的に表現する。				○	○	○	○
		9	6 漢字仮名交じりの書 (1)草稿作成 (2)作品制作 "							○	○	○	○
	7 仮名の書 (1)秋萩帖 (2)升色紙 (3)曼殊院本古今和歌集 (3)創作作品草稿作成 (4)創作作品制作 "				○					○	○	○	
	11	8 刻字 (1)草稿作成・転写								○	○	○	○
		(2)刻る								○	○	○	○
	三 学 期	1	鑑賞レポート (3)刻る・補刀 (4)着色 (5)鑑賞							・美術館・博物館において実際に名筆を見ることの価値観や、さまざまな社会的機能を理解する。 ・制作した作品を鑑賞し合い、構成や技能の良い点を発表する。			
				○	○	○	○						
				○	○	○	○						

	評価の観点	評価の規準	評価の方法
評 価 に つ い て	観点1: 関心・意欲・態度	書の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情や、書の伝統と文化を尊重する態度を身に付けようとしている。	学習活動への参加状況や態度 学習プリントの記入状況
	観点2: 思考・判断	確かな書の表現技法を習得し、それを生かしてより自由で個性的な書の表現を工夫している。	学習プリントの記入状況 学習成果(作品)
	観点3: 技能	自己の感興や意図を表現するため構想を具現化し、主体的に個性的・創造的な表現をすることができる。	学習プリントの記入状況 学習成果(作品)
	観点4: 知識・理解	鑑賞や書論の購読などの活動を通して、書の伝統と文化について理解している。書と生活や諸文化との関わりについて理解している。	学習成果(作品ファイル) 鑑賞カードの記入状況

令和5年度 東温高等学校シラバス

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2	教科書名(発行所)	MOUSA1 (教育芸術社)
----	----	----	------	-----	---	-----------	----------------

1 学習の到達目標

(歌唱) 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。
(器楽) 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する。
(創作) 音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解するとともに、反復、変化、対照などの手法を活用してメロディーをつくる技能を身に付け、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫する。
(鑑賞) 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解するとともに、曲や演奏に対する評価と根拠について考え、音楽のよさを自ら味わって聴く。

2 評価の規準・評価の仕方

	知識・技能	思考力・表現力・判断力	主体的に学習に取り組む態度
評価の規準	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりする。また、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	音楽や音楽文化に興味・関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。
評価の仕方	学習の取り組み状況 (観察・聴取) 課題プリント 学習プリント 授業態度	学習の取り組み状況 (観察・聴取) 学習プリント 作曲曲	課題進度状況 学習の取り組み状況 (観察・聴取) 実技テスト 記録表

3 学習計画及び評価の観点 (観点1: 知識・技能 観点2: 思考力・表現力・判断力 観点3: 主体的に学習に取り組む態度)

学期	月	指導計画 (単元名、指導項目その他)	学習のねらい	評価の観点		
				観点1	観点2	観点3
一学期	4	1 オリエンテーション	・1年間の授業の流れや、年間の目標を知る。			○
		2 校歌	・校歌の意味を理解したうえで歌唱する。	○		◎
	5	3 ボディパーカッションを楽しもう ・『Plymouth Rock』	・リズムを正確に読み、身体を効果的に用いて様々な音色を出す。	○		◎
		4 曲にふさわしい表現をしよう ・『翼をください』	・音色を工夫しながら、イメージを持って演奏する。	◎	○	
		5 ギターを演奏しよう ・各部位の名称、基本的奏法 ・チューニング ・コード演奏 ・グループでの演奏	・曲想と歌詞の内容がどのようにかかわっているか感じ取る。	○	◎	
	6	6 旋律の雰囲気を変化させよう ・発表会	・自分なりのイメージをもって『翼をください』を作詞する。	◎		○
		7 6 旋律の雰囲気を変化させよう ・発表会	・ギターを使用した楽曲を鑑賞し、音色に親しむ。	○		◎
二学期	8	7 世界の諸民族の音楽 ・声による表現	・ギターの基本的な奏法を身に付ける。	◎	○	
		8 世界の諸民族の音楽 ・声による表現	・ギターの特性を理解し、音程を調整する。	◎	○	
	9	9 日本の伝統音楽 (箏) ・箏の基本的奏法について ・調絃と楽譜の読み方について ・『さくら変奏曲』を演奏しよう ・ペア活動 ・発表会	・メロディーに合わせて伴奏を演奏する。	○		◎
		10 9 日本の伝統音楽 (箏) ・箏の基本的奏法について ・調絃と楽譜の読み方について ・『さくら変奏曲』を演奏しよう ・ペア活動 ・発表会	・息を合わせてアンサンブルする。	○	◎	○
		11 10 歌謡曲からJ-popへの100年 ・プロフェッショナルたちによる作品	・お互いの音を聴きながら演奏する。	○	◎	○
	12	11 10 歌謡曲からJ-popへの100年 ・プロフェッショナルたちによる作品	・様々な音階について理解し、その違いを味わう。	◎		○
		12 10 歌謡曲からJ-popへの100年 ・プロフェッショナルたちによる作品	・選んだ音階でテンポやリズムを工夫しながら旋律をつくる。	○	◎	
三学期	1	11 詩の心を大切に歌おう ・『冬景色』 ・『故郷』	・身の回りの音風景を探し、レポートにまとめる。		○	
		12 オペラを鑑賞しよう ・オペラの歴史について ・オペラ『カルメン』	・音楽を鑑賞する際のポイントを理解する。	○	◎	
	2	13 バンド・アンサンブルに挑戦 ・グループ活動	・音楽を形づくっている要素とその働きを知る。	◎	○	
		14 音楽 I のまとめ	・音楽の要素の働きと楽曲の特徴を捉える。	○		◎
		14 音楽 I のまとめ	・世界の諸民族の音楽文化や美意識の共通点や相違点を知る。		○	◎
	3	13 バンド・アンサンブルに挑戦 ・グループ活動	・それぞれの発声法や歌唱法の特徴を理解し、そのよさを味わう。		◎	○
		14 音楽 I のまとめ	・それぞれの国や地域の文化的・歴史的背景を理解して鑑賞する。	◎	○	
3	13 バンド・アンサンブルに挑戦 ・グループ活動	・様々な日本の伝統音楽について知り、楽曲を鑑賞する。	◎		◎	
	14 音楽 I のまとめ	・箏の音色や基本的な奏法の特徴を知る。	◎		○	
3	13 バンド・アンサンブルに挑戦 ・グループ活動	・平調子について理解し、調絃できるようになる。	◎	○		
	14 音楽 I のまとめ	・様々な奏法を生かして演奏する。	○	◎		
3	13 バンド・アンサンブルに挑戦 ・グループ活動	・ペアでアドバイスをしながら、自身の演奏をよりよくする。		○	◎	
	14 音楽 I のまとめ	・他者の演奏を聴き、よさや美しさを味わう。		◎	○	
3	13 バンド・アンサンブルに挑戦 ・グループ活動	・楽曲と時代背景について考え、それぞれの音楽の特徴を理解する。	◎	○		
	14 音楽 I のまとめ	・各年代を代表する名曲を鑑賞し、よさを味わう。		○	◎	
3	13 バンド・アンサンブルに挑戦 ・グループ活動	・自分の好きな音楽についてまとめる。		○		
	14 音楽 I のまとめ	・日本語の美しさを味わう。	◎		○	
3	13 バンド・アンサンブルに挑戦 ・グループ活動	・日本語の歌詞の歌い方について理解する。		◎	○	
	14 音楽 I のまとめ	・歌詞の内容と曲想を関わらせて歌唱する。	◎	○		
3	13 バンド・アンサンブルに挑戦 ・グループ活動	・様々なオペラ作品と作曲家について知る。	○		◎	
	14 音楽 I のまとめ	・オペラの歴史や時代背景を考える。	○	◎		
3	13 バンド・アンサンブルに挑戦 ・グループ活動	・物語の背景、歌詞の内容、登場人物の心情を理解する。		◎	○	
	14 音楽 I のまとめ	・パートの役割を理解して、音色の特徴を生かしながら演奏する。	◎		○	
3	13 バンド・アンサンブルに挑戦 ・グループ活動	・他パートの動きをよく聴いて、タイミングを合わせながら演奏する。	◎	○		
	14 音楽 I のまとめ	・1年間の学習の総まとめを行う。	○	◎		

令和5年度 東温高等学校シラバス

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	2	教科書名(発行所)	MOUSA2 (教育芸術社)
----	----	----	-----	-----	---	-----------	----------------

1 学習の到達目標

(歌唱)	曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、個性豊かに歌唱表現を創意工夫する。
(器楽)	曲想と和楽器の音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、個性豊かに器楽表現を創意工夫する。
(創作)	音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解を深めるとともに、音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏や編曲をする技能を身に付け、個性豊かに創作表現を創意工夫する。
(鑑賞)	音楽を形づくっている要素やそれらの働きに注目しながら曲を聴き、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴く。

2 評価の規準・評価の仕方

	知識・技能	思考力・表現力・判断力	主体的に学習に取り組む態度
評価の規準	音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。また、個性豊かな音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	音楽や音楽文化についての理解を深め、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。
評価の仕方	鑑賞レポート 課題プリント 課題進捗状況 学習の取り組み状況(観察・聴取) 実技テスト	学習の取り組み状況(観察・聴取) 学習プリント 創作曲	学習の取り組み状況(観察・聴取) 課題プリント 学習プリント 授業態度

3 学習計画及び評価の観点(観点1:知識・技能 観点2:思考力・表現力・判断力 観点3:主体的に学習に取り組む態度)

学期	月	指導計画(単元名、指導項目その他)	学習のねらい	評価の観点			
				観点1	観点2	観点3	
一学期	4	1 オリエンテーション	・1年間の授業の流れや、年間の目標を知る。			○	
		2 楽典 ・楽譜の読み方、書き方 ・和音	・音符の長さやリズム・拍子・強弱記号などについて理解する。 ・楽譜の書きが正確に行えるようになる。 ・和音の構成について理解する。	◎		○	
	5	3 創作 ・リズムの創作	・自分のつくりたい音楽をイメージして、モチーフを考える。 ・モチーフのリズムを変化させながら旋律をつくる。	◎	○		
		4 ギター ・チューニング ・コード演奏 ・ギターアンサンブル ・発表会	・ギターの基本的な奏法を身に付ける。 ・ギターの特性を知り、音色を味わって単音演奏する。 ・メロディーに合わせて伴奏を演奏する。 ・リズムやストロークを工夫しながら伴奏する。	◎		○	
	7	5 曲想と歌詞の内容との関わり ・『ハナミズキ』『糸』	・他者の演奏を鑑賞する。 ・曲想と歌詞の内容がどのようにかかわっているか感じ取る。 ・自分なりのイメージを持って、強弱などの特徴を生かして歌う。	◎		○	
		8	・身の回りの音に耳を傾ける	・身の回りの音風景を探し、レポートにまとめる。		◎	○
			6 映画を彩る音楽 ・『ハリーポッターと賢者の石』	・場面の状況や雰囲気、登場人物の心情と音楽の関わりを意識して鑑賞する。 ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解を深める。	◎	○	
二学期	10	7 ミュージカル音楽の魅力 ・ミュージカルについて	・作曲家や作詞家、ストーリーについて理解する。 ・ミュージカルの歴史や特徴を理解する。	◎	◎		
		8 『オペラ座の怪人』 日本の伝統音楽と楽器(箏) ・各部位の名称、歴史について ・基本的奏法について	・物語の背景、歌詞の内容、登場人物の心情などを理解する。 ・様々な日本の伝統音楽について知り、楽曲を鑑賞する。 ・各部位の名称や歴史について知識を深める。 ・箏の音色や基本的な奏法の特徴を知る。	◎		○	
	11	・楽曲の演奏① ・楽曲の演奏② ・発表会	・自己のイメージを持ち、班で協力して演奏する。 ・他者の演奏を聴き、箏の音色を味わう。 ・他者の演奏を鑑賞する。	◎	○		
		9 世界の諸民族の音楽 ・フラメンコ ・東南アジアの民謡	・世界の諸民族の音楽の多様な表現による音楽美を味わう。 ・音楽における身振りを伴う表現の特徴を理解しながら鑑賞する。 ・音楽の成り立ちや役割について理解する。	◎	○		
	1	・音楽鑑賞レポート	・自分の好きな音楽についてまとめる。			○	
		10 声楽アンサンブルを楽しもう ・童謡メドレー『幼き日のアルバム』	・曲の特徴を理解して、ハーモニーを感じながら歌う。 ・声部どうしのかかわりや二声の重なり合いを意識しながら歌う。	◎	○		
11 器楽アンサンブルを楽しもう ・グループ活動① ・グループ活動② ・発表会		・各パートの役割や全体の響きを考えながらアンサンブルを楽しむ。 ・共通のイメージをもって、アンサンブルにふさわしい表現をする。 ・タイミングや音程を合わせて演奏する。 ・グループごとに発表し合い、感想を述べ合う。	◎		○		
三学期	2			◎	○		
		12 音楽Ⅱのまとめ	・1年間の学習の総まとめを行う。	◎	○		

令和5年度 東温高等学校シラバス

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2	教科書名(発行所)	美術 1 (光村図書)
----	----	----	------	-----	---	-----------	-------------

1 学習の到達目標

--	--

2 評価の規準・評価の仕方

	知識・技能	思考力・表現力・判断力	主体的に学習に取り組む態度
評価の規準	創造的な表現をするために必要な美術の知識・技能を身につける。 対象を捉える造形的な視点について理解を深める。	独創的で優れた発想や構想ができる。 造形的な美しさ、創造的な工夫ができる。 美術の文化、歴史について学ぶ	美術と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組む。
評価の仕方	提出作品 質問に対する解答	提出作品 質問に対する解答	提出作品 授業態度 教室や道具の使い方

3 学習計画及び評価の観点 (観点1: 知識・技能 観点2: 思考力・表現力・判断力 観点3: 主体的に学習に取り組む態度)

学期	月	指導計画 (単元名、指導項目その他)	学習のねらい	評価の観点		
				観点1	観点2	観点3
一学期	4	1 オリエンテーション	美術 I の学習について知る。			◎
		(1) 成績・単位・備品・道具について		○		◎
	5	2 「自分」を表す	自分を掘り下げ、表現に結びつける。 丁寧な制作を行う。		○	◎
		(1) 絵画 自己をあらわす			○	◎
		(2) 好みの表現について			○	◎
	6	3 デザイン 平面構成 1	色の基本を学ぶ。 彩色の練習を行う。 配色の基本を学ぶ。	◎		○
		(1) 色の性質		◎	○	
7	(2) 色の効果		◎	○		
	(3) 配色のヒント		◎		○	
	4 デザイン 平面構成 2	グラデーションの技術を学ぶ。 効果的な仕上げ方法を試す。	○	◎		
	(1) グラデーション		○	◎		
	(2) アクセント			◎	○	
8	(3) セパレーション			◎	○	
	5 デザイン ポスター	ポスターの意義について学ぶ。 伝達を意識した作品にする方法を学ぶ。	◎		○	
二学期	8	人権ポスター制作			○	◎
		〃	相互の鑑賞を行う。		○	◎
	9	6 水彩画 アクリル絵の具で描く	制作と視線の関係を知る。 透視図法の表現を学ぶ。 正確な形を追求する。	◎		○
		(1) 対象の観察		◎	○	
		(2) 遠近法		◎	○	
	10	(3) デッサン	固有色を正確に再現する。 存在感のある絵を仕上げる。 立体の構成について考える。	◎	○	
		(4) 着色		◎	○	
	11	(5) 仕上げ		◎		○
		7 彫刻 生命感をあらわす	立体作品の存在感について知る。 整形の基礎を学ぶ。 立体にあった着色の技術を学ぶ。	○	◎	
		(1) 生命感を感知取る		○	◎	
	12	(2) 立体感をあらわす		○	◎	
		(3) 量感をあらわす			◎	○
(4) 彫刻の特性を生かす				◎	○	
(5) 着色				◎	○	
8 絵画 細密画		相互の鑑賞を行う。	○		◎	
三学期	1	読書感想画制作	感動を絵画に表現する。		○	◎
		9 工芸 ～スクラッチ絵画～	工芸作品について知る。 表現方法の違いについて考える。 制作の方法を学ぶ。 細部の調整を行う。	◎	○	
		(1) アイデアスケッチ		◎	○	
	2	(2) 下絵		◎	○	
		(3) 制作		◎		○
	3	(4) 仕上げ		◎		○
		10 絵画 肖像画	色と陰影の関係を把握する。 陰影の表現を学ぶ。 陰影から立体感を追求する。		◎	○
		(1) 対象を観察する		○	◎	
		(2) 陰影をつくる		○	◎	
(3) 立体感の追求		○	◎			
(4) 仕上げ		○	◎			
作品鑑賞 (通年で適宜行う)	相互の鑑賞を行う。	○		◎		

令和5年度 東温高等学校シラバス

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	2	教科書名(発行所)	美術2(光村)
----	----	----	-----	-----	---	-----------	---------

1 学習の到達目標

--	--

2 評価の規準・評価の仕方

	知識・技能	思考力・表現力・判断力	主体的に学習に取り組む態度
評価の規準	創造的な表現をするために必要な美術の知識・技能を身につける。 対象を捉える造形的な視点について理解を深める。	独創的で優れた発想や構想ができる。 造形的な美しさ、創造的な工夫ができる。 美術の文化、歴史について学ぶ	美術と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組む。
評価の仕方	提出作品 質問に対する解答	提出作品 質問に対する解答	提出作品 授業態度 教室や道具の使い方

3 学習計画及び評価の観点(観点1:知識・技能 観点2:思考力・表現力・判断力 観点3:主体的に学習に取り組む態度)

学期	月	指導計画(単元名、指導項目その他)	学習のねらい	評価の観点		
				観点1	観点2	観点3
一学期	4	1 オリエンテーション (1) 成績・単位・備品・道具について	美術Ⅰの学習について知る。			◎
		2 抽象への誘い			◎	
	5	(1) 抽象画の理解	抽象画とは何かを学ぶ。	○	◎	
		(2) 自身の内面・形の変化	制作のプロセスを知り、作品に活かす。	○	◎	
		(3) 作品を見ること	友人の作品を鑑賞し、制作に活かす。		◎	○
	6	3 人物を描く		◎		○
		(1) 構成	様々な人物画を鑑賞して、自分なりの表現を探る。	◎	○	
7	(2) 色面の分割	対象の明暗を意識して、立体感を出す。	◎	○		
	(3) 彩色	全体の形や色調を整える。	◎	○		
	(4) その人らしさをあらわす	モデルの雰囲気等を出すよう仕上げる。	◎		○	
	4 問題解決のためのデザイン		◎		○	
二学期	8	(1) 社会の問題に目を向ける	実社会の問題をデザインで解決する事を知る。	◎		
		(2) 解決のためのデザイン	問題への自分なりのアプローチを考える。	○	◎	
	10	(3) 他者への配慮	公共性を考慮した作品を描く。		◎	○
		5 人権ポスター			◎	○
		6 人の形を追求する	有名作家の立体作品を鑑賞する。	○	◎	
		(1) 様々な作家の作品を知る	制作の方向性を決める。	○	◎	
		(2) 自分なりの人物像を考える	形状を洗練させる。	○	◎	
11	(3) 抽象化・単純化	面を整えて作品を完成させる。	○	◎		
	6 素材と向き合う		◎		○	
	(1) 素材の性質	素材の特質について知る。	◎	○		
	(2) 素材と向き合う	素材の加工を通して技術を学ぶ。	◎		○	
	(3) 表現の工夫	素材を活かした表現を行う。	◎	○		
	(4) 質感の向上	資材にあった質感を追求する。	◎		○	
12	7 読書感想画		◎		○	
	(1) 読書の感動	感想画の説明。		○	◎	
	(2) 感動を表す構成	構成のこつについて学ぶ。	○		◎	
	(3) 構図	構図の基本を実例を元に学ぶ。	○		◎	
	(4) 効果的な彩色	彩度や明度の応用について学ぶ。	○		◎	
	(5) 仕上げ	細部を描き込み完成度を上げる。		○	◎	
三学期	1	(6) 作品鑑賞	生徒同士で作品を鑑賞して、次回からの制作に活かす。		○	◎
		8 平面構成	作文によって感想を深める。		◎	○
	2	(1) リビテーション	リピートによる効果を学ぶ。	○	◎	
		(2) トーン分類	色の特性の理解を深める。	○	◎	
		(3) 彩色	効果的な彩色方法を実践する。	○	◎	
	3	(4) 作品鑑賞	生徒同士で作品を鑑賞して、次回からの制作に活かす。		◎	◎
9 工芸			◎		○	
(1) 工芸品を知る		工芸作品の特徴を学ぶ。	◎		○	
(2) 素材の吟味		素材による表現の変化を感じる。	◎	○		
3	(3) 適切な加工	素材による適切な加工法を学ぶ。	◎	○		
	(4) 素材を生かした仕上げ	素材をよりよく見せる仕上げを行う。	◎		○	
	(5) 作品鑑賞	生徒同士で作品を鑑賞して、次回からの制作に活かす。			◎	

令和5年度 東温高等学校シラバス

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2	教科書名(発行所)	書 I (光村図書)
----	----	----	------	-----	---	-----------	------------

1 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。

(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 評価の規準・評価の仕方

	知識・技能	思考力・表現力・判断力	主体的に学習に取り組む態度
評価の規準	<ul style="list-style-type: none"> 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
評価の仕方	学習成果(作品) 学習プリントへの記入内容 自己評価表	学習成果(作品) 学習プリントへの記入内容 自己評価表	学習活動への参加状況や態度 学習プリントへの記入状況 自己評価表

3 学習計画及び評価の観点(観点1:知識・技能 観点2:思考力・表現力・判断力 観点3:主体的に学習に取り組む態度)

学期	月	指導計画(単元名、指導項目その他)	学習のねらい	評価の観点		
				観点1	観点2	観点3
一学期	4	1 書写から書道へ	<ul style="list-style-type: none"> 中学校の書写と書道との共通点と相違点を理解する。 伸びやかな点画や向勢で丸みのある字形がもたらす柔和な書風を感じ取る。 直線的で鋭い点画や背勢がもたらす厳格な書風を感じ取る。 行書的な用筆による変化に富んだ点画や、横画の強調がもたらす動きのある書風を感じ取る。 肉太の点画や向勢の構えがもたらす力感あふれる書風を感じ取る。 刻法によって生じる独特の点画や字形のありようを確認する。 方勢と円勢の意味を理解する。 草書の成立を確認し、点画の連続や省略、柔らかく丸みのある用筆を理解する。 隷書の成立を確認し、扁平な字形、藏鋒・中鋒などの用筆、波磔を理解する。 篆書の成立を確認し、縦長で左右相称の構えや水平・垂直を基本とする点画構成、均一な線の太さ、藏鋒・中鋒などの用筆を理解する。 篆刻の用具・用材や創作の手順について理解し、篆刻の技法を学ぶ。 白文印か朱文印かを選び、印を制作する。 創作作品を鑑賞し、感想を述べ合う。 	○		○
		2 漢字の書(1)楷書の書風の捉え方(構成) ア 孔子廟堂碑 イ 九成宮醴泉銘		○		○
	5	(2)楷書の書風の捉え方(用筆・運筆) ウ 雁塔聖教序 エ 顔氏家廟碑		○	○	
		(3)楷書の書風の捉え方(線質) オ 牛橛造像記 カ 鄭義下碑		○		
	6	(4)草書・隷書・篆書の書風の捉え方 ア 真草千字文 イ 曹全碑		○	○	
		(5)篆刻 ウ 泰山刻石 ア 印稿・布字		○	○	○
	7			イ 運刀	○	○
ウ 運刀・補刀・押印 エ 印箋・鑑賞		○	○	○		
二学期	8	鑑賞レポート	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの生活の中で見られる毛筆の書を探して発表し、その意義と効果を学ぶ。 行書の成立過程や通行書体としての性質を再確認し、行書を楷書と比較して、点画の丸み、連続・省略などの特徴を理解する。 抑揚を利かした運筆やどっしりと構えた文字、点画の連続を理解する。 縦長で左傾した文字の構えや大胆な筆圧の変化、藏鋒的な起筆を理解する。 中国や日本の古典の美について理解し、用筆、運筆、字形の取り方を学び、それぞれの書風の違いを理解する。 重厚感のある用筆、安定した字形を理解する。 半切作品の構成を理解させる。 筆脈を意識して制作する。 漢字の伝来から仮名の成立に至る過程で段階的に発生した仮名の種類を理解する。 平仮名の字源を知り、正確に字形を捉える。 平仮名と変体仮名を比較し、平仮名と同じ字源・違う字源の変体仮名を確認する。 端正な字形や清らかなで平明な線がもたらす品格の高い書風を感じ取る。 伸びやかな線質や、流れるような連綿がもたらす典型的な仮名の美を感じ取る。 意連・形連の仕方や筆脈の流れ、墨継ぎの場所を確認する。 	○		○
		(6)行書の書風の捉え方(用筆・運筆、構成) ア 蘭亭序 " "		○		○
	9	イ 争坐位文稿 ウ 蜀素帖 " "		○		
		エ 風信帖 オ 半切作品制作 " "		○	○	○
	10	3 仮名の書(1)仮名の成立 (2)仮名の書風の捉え方(用筆・運筆) ア 平仮名 イ 変体仮名 ウ 蓬萊切		○		○
				○	○	○
	11	オ 高野切第三種 " "		○		○
○			○	○		
12		○		○		
		○	○	○		
三学期	1	鑑賞レポート	<ul style="list-style-type: none"> 美術館・博物館において実際に名筆を見る。 日本文化における「間」の美意識について理解する。 紙面構成の特徴やそこから受ける印象の違いについて理解する。 文字群と余白の位置、字間・行間、文字の大きさ、線の太さの変化を意識する。 書く言葉を決め、表現のイメージを明確にもつ。 古筆を参考にしながら作品の構成を練り、平仮名・変体仮名の組み合わせ方や連綿の仕方、用具用材などを考える。 漢字仮名交じりの書の作例を鑑賞し、漢字と仮名の調和や自由な紙面構成などの表現の特徴を理解する。 意図やねらいに合う古典を参考にし、作品を制作する。 	○		○
		(3)仮名の書風の捉え方(構成) ア 継色紙 イ 寸松庵色紙 ウ 升色紙		○	○	
	2	(4)創作する " " " "		○		○
				○	○	○
3	4 漢字仮名交じりの書(1)漢字仮名交じりの書とは (2)創作する " "	○		○		
		○	○	○		

令和5年度 東温高等学校シラバス

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	2	教科書名(発行所)	書Ⅱ(光村図書)
----	----	----	-----	-----	---	-----------	----------

1 学習の到達目標

<p>書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育することを旨とする。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--

2 評価の規準・評価の仕方

	知識・技能	思考力・表現力・判断力	主体的に学習に取り組む態度
評価の規準	<ul style="list-style-type: none"> 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めている。 書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付け、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に書の表現及び鑑賞の創造的な諸活動に取り組もうとしている。
評価の仕方	学習成果(作品) 学習プリントへの記入内容 自己評価表	学習成果(作品) 学習プリントへの記入内容 自己評価表	学習活動への参加状況や態度 学習プリントへの記入状況 自己評価表

3 学習計画及び評価の観点(観点1:知識・技能 観点2:思考力・表現力・判断力 観点3:主体的に学習に取り組む態度)

学期	月	指導計画(単元名、指導項目その他)	学習のねらい	評価の観点			
				観点1	観点2	観点3	
一学期	4	1 漢字の書(1)個性豊かな漢字の姿	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の五書体の変遷と、歴史的背景を理解する。 鋭い線質や直線を主とした点画などの特徴を理解する。 絵画的な趣もある造形や縦長の字形ふくよかな点画などの特徴を理解する。 小篆と比べて、字形がやや横広がり、頭部が広くて下部が狭い逆台形の字形を理解する。 縦長で左右相称の字形や均一な線の太さ、正確な点画の配置を理解する。 強調された波磔による重厚感のある書風を理解する。 伸びやかな波磔やリズムカルでスピード感のある書風を理解する。 均整のとれた字画構成、波磔の装飾的効果を理解する。 磨崖碑であり、気宇壮大な結構で呼吸が長く、自然なリズムを感じ取る。 柔らかで緩急のある格調高い書風を感じ取る。 草書の字形には一定の法則があることを理解する。 字画の粗密、用筆のリズム感から生まれる躍動感や爽快感を体験する。 	○		○	
		(2)篆書の書風の捉え方		ア 甲骨文 イ 小臣餘犧尊(金文) ウ 石鼓文(大篆) 〃	○		
	5	(3)隷書の書風の捉え方		エ 泰山刻石(小篆)	○		○
				ア 乙瑛碑 イ 居延漢簡 ウ 曹全碑 エ 石門頌	○		○
	6	(4)草書の書風の捉え方		ア 十七帖	○	○	
				イ 書譜	○		○
	二学期	8		鑑賞レポート	<ul style="list-style-type: none"> 町や史跡等で見られる看板や表札の魅力ある書表現を探し、鑑賞し発表する。 王羲之の書風の普遍的な魅力を理解する。 線の太細、文字の大小、偏と旁・冠と脚の絶妙なバランスを理解する。 独特の結構、抑揚に富んだ線質から成る切れ味鋭い書風を理解する。 力強い運筆と、線の重厚さ・蔵鋒・連綿との関わりを理解する。 扁平な造形や穏健な書きぶりなどの特色を理解する。 跳ね上げるような収筆や隷書の趣を含んだ書きぶりなどの特色を理解する。 漢字と仮名の調和を理解し、自由に表現する喜びを味わう。 文字と余白を理解し、全体構成を考えた表現を身に付ける。 受けた印象や想像した風景が、どのような表現の工夫によるものか考える。 選んだ古典の書風を捉え、用筆・運筆を工夫して表現する。 用紙の大きさによって、文字の大きさや配置を工夫する必要があることを理解する。 感じたことを自分のことばでまとめ、意見交換する。 美術館・博物館において実際に名筆を見ることの価値観を理解する。 印の用途や押印したときの表現効果を考慮して作品を構想する。 篆刻の創作の手順について理解し、篆刻の技法を学ぶ。 作品を鑑賞し、感想を述べ合う。 連綿と墨継ぎによる表現の美を感じ取る。 さまざまな平仮名・変体仮名の書き方を習得する。 古筆の多彩な表現効果を感じ取らせる。 散らし書きによる空間の美を味わう。 	○	
(5)行書の書風の捉え方			ア 集王聖教序 〃 イ 温泉銘 ウ 祭姪文稿	○			○
10		(6)楷書の書風の捉え方	ア 薦季直表	○			
			イ 爨宝子碑			○	
11		2 漢字仮名交じりの書 (1)風景を書で表現する	〃	○			○
			(2)創作(古典の書風を生かそう)			○	
12		〃	〃	○		○	
	(3)鑑賞			○	○		
三学期	1	鑑賞レポート	<ul style="list-style-type: none"> 美術館・博物館において実際に名筆を見ることの価値観を理解する。 印の用途や押印したときの表現効果を考慮して作品を構想する。 篆刻の創作の手順について理解し、篆刻の技法を学ぶ。 作品を鑑賞し、感想を述べ合う。 連綿と墨継ぎによる表現の美を感じ取る。 さまざまな平仮名・変体仮名の書き方を習得する。 古筆の多彩な表現効果を感じ取らせる。 散らし書きによる空間の美を味わう。 	○		○	
		3 漢字の書②(1)篆刻		ア 印稿・布字 イ 運刀・補刀 ウ 押印・印箋・鑑賞		○	
	2	4 仮名の書(1)仮名の書風の捉え方		ア 高野切第一種	○		○
				イ 平仮名・片仮名・変体仮名 ウ 高野切第二種	○	○	
	3	エ 関戸本古今和歌集		○		○	

令和5年度 東温高等学校シラバス

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2	教科書名(発行所)	MOUSA1 (教育芸術社)
----	----	----	------	-----	---	-----------	----------------

1 学習の到達目標

(歌唱)	曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。
(器楽)	曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する。
(創作)	音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解するとともに、反復、変化、対照などの手法を活用してメロディーをつくる技能を身に付け、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫する。
(鑑賞)	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解するとともに、曲や演奏に対する評価と根拠について考え、音楽のよさを自ら味わって聴く。

2 評価の規準・評価の仕方

	知識・技能	思考力・表現力・判断力	主体的に学習に取り組む態度
評価の規準	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりする。また、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	音楽や音楽文化に興味・関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。
評価の仕方	学習の取り組み状況 (観察・聴取) 課題プリント 学習プリント 授業態度	学習の取り組み状況 (観察・聴取) 学習プリント 作曲	課題進捗状況 学習の取り組み状況 (観察・聴取) 実技テスト 記録表

3 学習計画及び評価の観点 (観点1: 知識・技能 観点2: 思考力・表現力・判断力 観点3: 主体的に学習に取り組む態度)

学期	月	指導計画 (単元名、指導項目その他)	学習のねらい	評価の観点			
				観点1	観点2	観点3	
一学期	4	1 オリエンテーション	・1年間の授業の流れや、年間の目標を知る。			○	
		2 校歌	・校歌の意味を理解したうえで歌唱する。	○		◎	
	5	3 ボディパーカッションを楽しもう ・『Plymouth Rock』	・リズムを正確に読み、身体を効果的に用いて様々な音色を出す。	○		◎	
		4 曲にふさわしい表現をしよう ・『翼をください』	・音色を工夫しながら、イメージを持って演奏する。	◎	○		
		5 ギターを演奏しよう ・各部位の名称、基本的奏法 ・チューニング ・コード演奏 ・グループでの演奏	・自分なりのイメージをもって『翼をください』を作詞する。 ・ギターを使用した楽曲を鑑賞し、音色に親しむ。 ・ギターの基本的な奏法を身に付ける。 ・ギターの特性を理解し、音程を調整する。 ・メロディーに合わせて伴奏を演奏する。	◎	○		
	6	6 旋律の雰囲気を変化させよう ・発表会	・息を合わせてアンサンブルする。	○	◎	◎	
		7 6 旋律の雰囲気を変化させよう ・発表会	・お互いの音を聴きながら演奏する。	○	◎	○	
二学期	8	7 身の回りの音に耳を傾けよう 音楽の要素とイメージをつなげよう ・音楽の要素について ・組曲『動物の謝肉祭』	・身の回りの音風景を探し、レポートにまとめる。 ・音楽を鑑賞する際のポイントを理解する。 ・音楽を形づくっている要素とその働きを知る。		○		
		8 世界の諸民族の音楽 ・声による表現	・音楽の要素の働きと楽曲の特徴を捉える。 ・世界の諸民族の音楽文化や美意識の共通点や相違点を知る。 ・それぞれの発声法や歌唱法の特徴を理解し、そのよさを味わう。	◎	○	◎	
	9	9 日本の伝統音楽 (箏) ・箏の基本的奏法について ・調絃と楽譜の読み方について ・『さくら変奏曲』を演奏しよう ・ペア活動 ・発表会	・それぞれの国や地域の文化的・歴史的背景を理解して鑑賞する。 ・様々な日本の伝統音楽について知り、楽曲を鑑賞する。 ・箏の音色や基本的な奏法の特徴を知る。 ・平調子について理解し、調絃できるようになる。 ・様々な奏法を生かして演奏する。 ・ペアでアドバイスをしながら、自身の演奏をよりよくする。 ・他者の演奏を聴き、よさや美しさを味わう。	◎	○		
		10	10 歌謡曲からJ-popへの100年 ・プロフェッショナルたちによる作品	・楽曲と時代背景について考え、それぞれの音楽の特徴を理解する。 ・各年代を代表する名曲を鑑賞し、よさを味わう。	◎	○	◎
		11	11	・自分の好きな音楽についてまとめる。 ・日本語の美しさを味わう。 ・日本語の歌詞の歌い方について理解する。 ・歌詞の内容と曲想を関わらせて歌唱する。 ・様々なオペラ作品と作曲家について知る。 ・オペラの歴史や時代背景を考える。 ・物語の背景、歌詞の内容、登場人物の心情を理解する。	◎	○	○
	12	12	・パートの役割を理解して、音色の特徴を生かしながら演奏する。 ・他パートの動きをよく聴いて、タイミングを合わせながら演奏する。 ・1年間の学習の総まとめを行う。	◎	○		
		1	11 詩の心を大切に歌おう ・『冬景色』 ・『故郷』	◎	◎	○	
2		12 オペラを鑑賞しよう ・オペラの歴史について ・オペラ『カルメン』	○	◎	◎		
三学期	2	13 バンド・アンサンブルに挑戦 ・グループ活動	◎	◎	○		
		14 音楽 I のまとめ	◎	◎			

令和5年度 東温高等学校シラバス

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2	教科書名(発行所)	美術 1 (光村図書)
----	----	----	------	-----	---	-----------	-------------

1 学習の到達目標

--	--

2 評価の規準・評価の仕方

	知識・技能	思考力・表現力・判断力	主体的に学習に取り組む態度
評価の規準	創造的な表現をするために必要な美術の知識・技能を身につける。 対象を捉える造形的な視点について理解を深める。	独創的で優れた発想や構想ができる。 造形的な美しさ、創造的な工夫ができる。 美術の文化、歴史について学ぶ	美術と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組む。
評価の仕方	提出作品 質問に対する解答	提出作品 質問に対する解答	提出作品 授業態度 教室や道具の使い方

3 学習計画及び評価の観点 (観点1: 知識・技能 観点2: 思考力・表現力・判断力 観点3: 主体的に学習に取り組む態度)

学期	月	指導計画 (単元名、指導項目その他)	学習のねらい	評価の観点		
				観点1	観点2	観点3
一学期	4	1 オリエンテーション	美術 I の学習について知る。			◎
		(1) 成績・単位・備品・道具について		○		◎
	5	2 「自分」を表す	自分を掘り下げ、表現に結びつける。 丁寧な制作を行う。		○	◎
		(1) 絵画 自己をあらわす			○	◎
		(2) 好みの表現について			○	◎
	6	3 デザイン 平面構成 1	色の基本を学ぶ。 彩色の練習を行う。 配色の基本を学ぶ。	◎		○
		(1) 色の性質		◎	○	
(2) 色の効果			◎	○		
(3) 配色のヒント			◎		○	
7	4 デザイン 平面構成 2	グラデーションの技術を学ぶ。 効果的な仕上げ方法を試す。	○	◎		
	(1) グラデーション		○	◎		
	(2) アクセント			◎	○	
	(3) セパレーション			◎	○	
	5 デザイン ポスター	ポスターの意義について学ぶ。 伝達を意識した作品にする方法を学ぶ。	◎		○	
二学期	8	人権ポスター制作			○	◎
		〃	相互の鑑賞を行う。		○	◎
	9	6 水彩画 アクリル絵の具で描く	制作と視線の関係を知る。 透視図法の表現を学ぶ。 正確な形を追求する。	◎		○
		(1) 対象の観察		◎		○
		(2) 遠近法		◎	○	
		(3) デッサン		◎	○	
		(4) 着色		◎	○	
	10	(5) 仕上げ	存在感のある絵を仕上げる。 立体の構成について考える。	◎		○
		7 彫刻 生命感をあらわす	立体作品の存在感について知る。 整形の基礎を学ぶ。 立体にあった着色の技術を学ぶ。	○	◎	
		(1) 生命感を感知取る		○	◎	
	11	(2) 立体感をあらわす		○	◎	
		(3) 量感をあらわす			◎	○
(4) 彫刻の特性を生かす				◎	○	
(5) 着色				◎	○	
8 絵画 細密画		相互の鑑賞を行う。	○		◎	
三学期	1	読書感想画制作	感動を絵画に表現する。		○	◎
		9 工芸 ～スクラッチ絵画～	工芸作品について知る。 表現方法の違いについて考える。 制作の方法を学ぶ。 細部の調整を行う。	◎	○	
		(1) アイデアスケッチ		◎	○	
	2	(2) 下絵		◎	○	
		(3) 制作		◎		○
		(4) 仕上げ		◎		○
	3	10 絵画 肖像画	色と陰影の関係を把握する。 陰影の表現を学ぶ。 陰影から立体感を追求する。		◎	○
		(1) 対象を観察する		○	◎	
		(2) 陰影をつくる		○	◎	
(3) 立体感の追求		○	◎			
(4) 仕上げ		○	◎			
作品鑑賞 (通年で適宜行う)	相互の鑑賞を行う。	○		◎		

令和5年度 東温高等学校シラバス

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2	教科書名(発行所)	書 I (光村図書)
----	----	----	------	-----	---	-----------	------------

1 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。

(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 評価の規準・評価の仕方

	知識・技能	思考力・表現力・判断力	主体的に学習に取り組む態度
評価の規準	<ul style="list-style-type: none"> 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
評価の仕方	学習成果(作品) 学習プリントへの記入内容 自己評価表	学習成果(作品) 学習プリントへの記入内容 自己評価表	学習活動への参加状況や態度 学習プリントへの記入状況 自己評価表

3 学習計画及び評価の観点(観点1:知識・技能 観点2:思考力・表現力・判断力 観点3:主体的に学習に取り組む態度)

学期	月	指導計画(単元名、指導項目その他)	学習のねらい	評価の観点		
				観点1	観点2	観点3
一学期	4	1 書写から書道へ	<ul style="list-style-type: none"> 中学校の書写と書道との共通点と相違点を理解する。 	○		○
		2 漢字の書(1)楷書の書風の捉え方(構成) ア 孔子廟堂碑 イ 九成宮禮泉銘	<ul style="list-style-type: none"> 伸びやかな点画や向勢で丸みのある字形がもたらす柔和な書風を感じ取る。 	○		○
	5	(2)楷書の書風の捉え方(用筆・運筆) ウ 雁塔聖教序 エ 顔氏家廟碑	<ul style="list-style-type: none"> 直線的で鋭い点画や背勢がもたらす厳格な書風を感じ取る。 行書的な用筆による変化に富んだ点画や、横画の強調がもたらす動きのある書風を感じ取る。 	○	○	
		(3)楷書の書風の捉え方(線質) オ 牛橛造像記 カ 鄭義下碑	<ul style="list-style-type: none"> 肉太の点画や向勢の構えがもたらす力感あふれる書風を感じ取る。 刻法によって生じる独特の点画や字形のありようを確認する。 	○		
		(4)草書・隸書・篆書の書風の捉え方 ア 真草千字文 イ 曹全碑	<ul style="list-style-type: none"> 方勢と円勢の意味を理解する。 草書の成立を確認し、点画の連続や省略、柔らかく丸みのある用筆を理解する。 	○	○	
	6	(5)篆刻 ウ 泰山刻石	<ul style="list-style-type: none"> 隸書の成立を確認し、扁平な字形、藏鋒・中鋒などの用筆、波磔を理解する。 	○	○	
			ア 印稿・布字 イ 運刀	<ul style="list-style-type: none"> 篆書の成立を確認し、縦長で左右相称の構えや水平・垂直を基本とする点画構成、均一な線の太さ、藏鋒・中鋒などの用筆を理解する。 篆刻の用具・用材や創作の手順について理解し、篆刻の技法を学ぶ。 	○	
二学期	8	鑑賞レポート (6)行書の書風の捉え方(用筆・運筆、構成) ア 蘭亭序	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの生活の中で見られる毛筆の書を探して発表し、その意義と効果を学ぶ。 	○		○
		イ 争坐位文稿 ウ 蜀素帖	<ul style="list-style-type: none"> 行書の成立過程や通行書体としての性質を再確認し、行書を楷書と比較して、点画の丸み、連続・省略などの特徴を理解する。 	○	○	
	9	エ 風信帖	<ul style="list-style-type: none"> 抑揚を利かした運筆やどっしりと構えた文字、点画の連続を理解する。 	○		
		オ 半切作品制作	<ul style="list-style-type: none"> 縦長で左傾した文字の構えや大胆な筆圧の変化、藏鋒的な起筆を理解する。 中国や日本の古典の美について理解し、用筆、運筆、字形の取り方を学び、それぞれの書風の違いを理解する。 	○	○	
		ウ 蓬萊切	<ul style="list-style-type: none"> 重厚感のある用筆、安定した字形を理解する。 半切作品の構成を理解させる。 筆脈を意識して制作する。 	○	○	○
	11	3 仮名の書(1)仮名の成立 (2)仮名の書風の捉え方(用筆・運筆) ア 平仮名	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の伝来から仮名の成立に至る過程で段階的に発生した仮名の種類を理解する。 	○		○
		イ 変体仮名 ウ 蓬萊切	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の字源を知り、正確に字形を捉える。 平仮名と変体仮名を比較し、平仮名と同じ字源・違う字源の変体仮名を確認する。 端正な字形や清らかなで平明な線がもたらす品格の高い書風を感じ取る。 	○	○	
12	オ 高野切第三種	<ul style="list-style-type: none"> 伸びやかな線質や、流れるような連綿がもたらす典型的な仮名の美を感じ取る。 意連・形連の仕方や筆脈の流れ、墨継ぎの場所を確認する。 	○		○	
				○	○	
三学期	1	鑑賞レポート (3)仮名の書風の捉え方(構成) ア 継色紙 イ 寸松庵色紙 ウ 升色紙	<ul style="list-style-type: none"> 美術館・博物館において実際に名筆を見る。 日本文化における「間」の美意識について理解する。 紙面構成の特徴やそこから受ける印象の違いについて理解する。 文字群と余白の位置、字間・行間、文字の大きさ、線の太さの変化を意識する。 	○		○
		(4)創作する	<ul style="list-style-type: none"> 書く言葉を決め、表現のイメージを明確にもつ。 古筆を参考にしながら作品の構成を練り、平仮名・変体仮名の組み合わせ方や連綿の仕方、用具用材などを考える。 	○	○	
	2	ウ 升色紙		○		
				○	○	
3	4 漢字仮名交じりの書(1)漢字仮名交じりの書とは (2)創作する	<ul style="list-style-type: none"> 漢字仮名交じりの書の作例を鑑賞し、漢字と仮名の調和や自由な紙面構成などの表現の特徴を理解する。 意図やねらいに合う古典を参考にし、作品を制作する。 	○	○		
			○	○		